

「こころを尽くして」 ～あなたは自らを見極めています？～

マル 12：28～37

最近のテレビやインターネットの動画などをみると、訴えるものがなく意味の分からないものが増えているように感じます。しかし、そんなくだらないどこかずれた内容のものが、多くの人に受け入れられている現実もあります。こういったものをみて、今悩んでいる自分の現状に目を向けないようにしているのかもしれませんが、しかし、自分のまわりにある色々な情報や目の前に起こることに騙され、本来のあるべきあなたの姿を見失っていてもよいでしょうか？今日は、本来の姿でないあなたがスタンダードになった生き方になっていないか、神様があなたを創造された本来の姿、あなたの生きる意味、あなたがどう歩んだらよいかを聖書を通してみていきましょう。

今日は聖書の中でも中心的なみことば、マルコの福音書12：28-37から語られます。この聖書箇所の前に、復活はないと主張していたサドカイ人たちとイエス様の話が書かれています。そこでイエス様は彼らの質問に対して「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではありませんか。・・・(12：24-27)」と言われます。その頃イエス様の元へはパリサイ人や律法学者たちがイエス様を陥れようとして近づいてきていました。彼らからすると本来の目的を隠して近づいたのですが、イエス様はそれに騙されることはありませんでした。なぜならイエス様はその人の心を見ていたからです。そして彼らはイエス様から厳しい言葉を語られ、なにも言い返すことができませんでした。そんなところにある一人の律法学者がきて、イエス様に質問します。彼はイエス様を陥れようとするのではなく、ただ自分が疑問に思っていた『すべての命令の中で一番大切なことはなにか』をイエス様なら答えてくれると思い聞いたのです。ですからイエス様もそれを受けて『心と尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』と答えられます。

ここで出てきた2つの答え。これはこの箇所ではじめて出てきたものでしょうか？いいえ、これらのみことばは旧約聖書のときからずっとあったものです。(レビ記19：13-18、申命記6：5)ここから、いつの時代も私たちに神様が語られることは、たくさんの律法や決まりごとがある中で、これらのことに集中していることが分かります。しかし時に私たちがパリサイ人やサドカイ人同様に自分がなぜ生きているのか、一人ひとりにどんな計画を神様が持っておられるのかが分からなくなります。それによってその分からないことを、自分の都合で進めようとしてしまいます。ここで出てきた律法学者もイエス様の答えを聞いて賢い返事をしましたが、彼自身が律法を学ぶのはなんのためかについて一番大事な神様のことが好きだからということを見失い、ただ自分の学問を究めたいためになっていました。目的がずれていたのです。ですからイエス様は彼に神の国から遠くない⇒まだあなたの考えはずれているということを伝えます。しかし彼はそのことを見極めることができませんでした。

そして次に場面が展開し、どうしてキリストをダビデの子と呼ぶのかという質問がなされます。ダビデにとってイエス様は「私の主」でしたが、なぜイエス様はダビデの子に成り下がってしまったのでしょうか。それは彼らにとっての救世主は、自分たちの思うように力でこの世界を統治してくれる方という人間的な思いがあったからです。ここにも神の子を人の子として試みようとする人々の思いのずれに気づかれます。

では、あなたはどうでしょうか。神様の祝福の道を歩み続けるには、どうしたらいいか分かっていますか。神様の思いとあなたの願い事がずれていないでしょうか。神様に幸せにいてくださいと願っても自分の思うようにならなかつたら不平不満を言っていないでしょうか。だとすればあなたは自分の都合でイエス様をダビデの子にしています。でもそれは間違いだということあなたはすでに知りました。ですからあなたは、あなたのことが大好きで、あなたの道を知っていて、あなたがどういれれば本来のあなたでいられるかを知っておられる神様に聞き、自らを捨てなければいけません。それは自分の人格を捨てるということではなく、神様ははじめにあなたに計画をもって創造された素晴らしい姿を思い起こし、あなた自身の都合で生きるのではなく神様のつくられたまっすぐな道を歩むということです。聖書の罪(自分の思ったとおりにならないときにその道を擦れること、的をはずすこと)を悔い改めて正しい道を歩みましょう。

ですから、あなたがずれずに神様の道を歩むために、**自分を神様の目で見て！！**いきましょう。自分の都合は自分自身を見えなくさせます。あなたは自分が信じていることが全てと思っていないですか。そして自分の考えが正しいと思い、それを否定されるのはいやではありませんか。それを続けていると、いつまでも神様のまっすぐな道を歩くことはできません。しかし、教会に集い神様のみことばをきいている私たちには神様にどの向きに歩んだらよいかを言われているのですから自分のまっすぐな道からずれているかどうかは自分で見たら分かるのです。それでも時にずれて傷つくこともあるかもしれません。あなた自身が道分からなくなることもあるかもしれません。しかしそのような時も心配はいりません。なぜならそのようなときにも神様はこの教会に向きを教えてくれる隣人を与えてくださり、必ず元に戻る道を示してくださっているからです。ですから私たちはイエス様をダビデの子(=自分の思い通りの神様)にせず、神の子にしましょう。また、神様は『心を尽くし、思いを尽くし・・・』と言われています。では、具体的に心を尽くすとはどうすることでしょうか？それは全ての心を使う、つまり心の中を自分の都合で一杯にせず、神様がなんと言われているかを考えることなのです。では、知力を尽くすとは？それは神様のことをもっと知ろうとすること、物事を考えることです。私たちを取り巻く環境は答えがすぐ出てきて、待てない日本人を作り上げています。あなたは考えない人になっていませんか？私たちに神様の答えはこの世の常識と違い、思いもよらないものばかりです。しかしそれは言い返すことなどでできない完全なものです。ですから私たちはなぜ神様がそう言われるのかを考えなければいけません。なぜ今自分をこのように導いているのか。愚痴を言わず歩み方を神様に聞いていきましょう。そして、力を尽くすとは？これは自分にとって嫌なことがあり逃げたいと思ったときに逃げないことを選択することだと思えます。逃げてしまうと戻るのが大変で、時に戻れなくなってしまうこともあります。でも頑張ることは少しです。先にもあるとおり、教会にはあなたの隣人がいます。あなたの本来の姿からずれてしまったときそれを教えてくれる人がいるのです。そのときはヤスリのように痛みを感じることもあるかもしれませんが、しかし普通そこまで関わってくれる人はこの世にはいません。教会は心と心でぶつかり合って愛し合うところです。こうして、私たちは神様がどれだけ自分を愛してくださっているか、自分を導こうとしておられるかが分かるのです。ですからあなた自身が神様の目線で本来の自分を見て、隣人を神様の目線で自分を愛するように見なければいけません。そしてもし、ずれているならば一番良いときに良い方法で相手が聞けるように愛を持って接していかなければいけません。これが難しいことですが、その人の本当の姿を思ってその人のために語ることができれば、教会は素晴らしい場所になります。そして大事なことがもう一つ。悪いことをしたときに、その人が素直にごめんなさいといえるかです。もしそれができるなら、その人は失敗や脱線しても必ず戻ることができるのです。神様がどう見ているか自分自身と隣人をしっかりみて、共に手を取って道を整えていきましょう。(要約者：金光 瞳)